

12月7日(水)



川崎 健二 (自由民主党)



### 広報を強化し観光客を呼び込め!

県外、特に福岡市民163万人を呼び込み、観光・経済の振興を図るために①福岡市民への情報発信はどうしているか②新聞やテレビ以外にどのようなPRをしているか③庁内の広報機能を強化すべきでは④市長のトップセールス等、今後の展開は。

12月8日(木)



中野 茂康 (緑橋自派)



### がん検診の受診率向上対策は

特定健診、がん検診の受診者数が低迷している。がんによる死亡者数を減らさせるには、検診による早期発見・早期治療が不可欠である。しかし、検診の結果、保健指導や精密検査が必要とされても検診を受けない方がいるが、その対策について問う。



松永 幹哉 (自由民主党)



### 木質バイオマス事業の推進

佐賀市バイオマス産業都市構想の中で森林整備の推進と中山間地域の振興を図るために、誘致計画が進んでいた木質バイオマス発電事業が断念された。期待されていた事業の代替案として今後の木質バイオマスの活用を含めた振興策を問う。



嘉村 弘和 (自由民主党)



### 公民館のコミュニティセンター化へ

地域活動拠点としての公民館は、社会教育法に基づく施設であるため、社会教育に縛られ、施設利用が制限される。今後、ますますまち協などの活動が活発化すれば、公民館の機能ではそぐわなくなることから、多機能なコミュニティセンター化が必要では。

◆その他◆不登校対策について/鳥獣被害対策について



答弁 ①新聞折込や福岡市内の学校を通じたチラシの配布、観光案内所等へのパンフレット設置、雑誌への掲載、SNS等を活用している②福岡市内の百貨店へ出展した実績もあり、他の地域へ出向いたPRも行っている③イベント等の情報を広報課に集約して発信している。また、研修で職員の資質向上に努めている④首都圏百貨店の催事や佐賀城下ひな祭りの福岡メディア訪問などを行い、機を逸せずに取り組みを進めていきたい。

◆その他◆2022佐賀インターナショナルバルーンフェスタ/下水浄化センターの取り組み



答弁 保健指導対象者の中で糖尿病リスクの高い方へは、受診勧奨や保健指導を継続的に実施している。糖尿病を放置すると重症化するため、医療機関への受診がない方へは勧奨通知を発送している。がん検診の結果で精密検査が必要だが、未受診の方へは個別通知での受診勧奨や保健師の家庭訪問による受診勧奨を行っている。早期発見、早期治療には精密検査受診が重要で粘り強くアプローチを続ける。

◆その他◆国民スポーツ大会における観光政策について/農村振興について



答弁 昨年度に引き続き原木の生産量が伸びている中、木材の価値を高めるためには、建材とまらないC・D材の利活用が重要と考えている。また、木質バイオマス利活用の検討にあたっては、安定的な供給量の確保だけでなく、需要先の確保も必要である。今後の取り組みとして、地域内で原木の切り出し・チップ化をして施設で熱利用するといった、森林資源を無駄なく地域内で循環させる仕組みを構築していきたい。

◆その他◆公民館に求められる役割も変わってきており、地域活動の拠点として機能をさらに深めていくために今後の在り方について検討する時期にきている。既に住民サービスの向上と施設の利便性を高めるために公民館機能の強化や拡充の検討を始めており、また公民館における社会教育の在り方の議論も必要であり、多方面の方々の意見を聞きながら、地域活動の拠点である公民館の在り方についてコミュニティセンター化を含めて検討していく。



◆その他◆自転車を利用したまちづくりについて

12月9日(金)



### 詐欺空き集等 防犯対策や取り組みを

中村 宏志 (公明党)



①市の消費生活センターでの詐欺の相談内容は②詐欺対策の課題は何か③詐欺被害防止はどのような取り組みか④「ながら防犯」の活動を後押ししていくべきと思うが考えは⑤「ながら防犯」等の防犯活動や対策を行う個人へ助成制度等の考えはないか。

**答弁** ①架空請求詐欺や還付金詐欺等②遅滞ない対応や無関心者への啓発③安全安心なまちづくり街頭キャンペーンや消費生活安全推進講座、佐賀大学公開講座、出前講座、消費者団体意見交換会、消費生活フェア等で情報提供、周知啓発を行った④有効な防犯活動であり活動がさらに広がるよう警察、関係団体と連携し環境づくりに取り組む⑤現時点では考えていないが、防犯活動の活性化や地域の防犯力の向上を図るため他市の状況や先進地の事例など情報収集したい。  
◆その他◆窓  
口について



### スケートボードや BMXの練習場を

宮崎 健 (自由民主党)



①本市には依然として、スケートボードやBMX等のエクストリームスポーツの練習場がない。一刻も早い整備が必要ではないか②大和中央公園にスケートボード等の練習ができる施設を作って欲しいとの要望書が地元の川上地区から出ているが、その対応は。

**答弁** ①努力はしているが今のところうまくいっていない。現在、嘉瀬川河川敷の緑地を案内しているが、競技に必要な構造物を常設できる場所がないか、情報収集したい②施設設置については、利用者のニーズや音への対策等を参考に必要性を含め、今後地元及び関係機関と協議したい。競技力向上のための練習場の確保については認識しており、広くスポーツ振興の面からも、横断的な連携をとりながら、協議を行いたい。  
◆その他◆スポーツによるまちづくりについて



### 広げよう！子ども へのまなざし運動

富永 明美 (ネットワーク佐賀)



子どもへのまなざし運動が15周年を迎え、さまざまな課題も見えてきたと感じる①課題とそれに対する対策は②関係者だけでなくもっと市民を巻き込む方策が必要では③市長には新しい時代の新しい子どもへのまなざし運動を展開して欲しい。意気込みを問う。

**答弁** ①保護者自身が多忙で子どもと向き合う時間が作れない、孤立を感じる保護者の増加を感じるほか、養育力の低下した家庭への働き掛けも課題。運動推進には企業等の理解が不可欠であり、更なる働き掛けが必要②より多くの市民に参加してもらえよう工夫を青少年健全育成連合会と相談していく③家庭、学校、地域、企業などより多くの多様な大人が子どもの育ちに主体的に関わっていくことが重要。運動の先頭に立って推進していく。  
◆その他◆ヤングケアラー／ファミリアサポート事業



### 観頤荘の考えを 松原公園整備に！

江頭 弘美 (自由民主党)



鍋島三代藩主綱茂公時代に日本三大名園(兼六園・偕楽園・後楽園)に匹敵する観頤荘という名の大名庭園が佐賀市に存在した。歴史的風致維持向上計画の一つとして整備が計画されている松原公園一帯を中心に、観頤荘のコンセプトで整備を考えてはどうか。

**答弁** 「松原公園周辺における歴史と文化を活かしたまちづくり懇話会」において、観頤荘を松原公園の一帯に再現してはという意見が出ている。庭園自体の再現には物理的な制約があるものの、観頤荘の名前の由来となった考え方や松原公園周辺の歴史を現代と紐づける視点は重要であると考えている。市民が誇りに思う松原公園になるように、このような考え方をどのように取り込んでいくのか、懇話会の中で更に議論を深めていきたい。  
◆その他◆土木系施設インフラ老朽化対策について







通学路の防犯カメラ  
設置を急げ！

平原 嘉徳 (自民清流)



昨年、本市で発生した通学路での2件の殺人未遂事件を受け、県飲食業組合と地元商店街組合から防犯カメラ設置要望があったが防犯協会の助成制度を伝えるだけだった。紹介するだけでなく市民の安全安心のために市長が責任をもって防犯カメラを設置すべきだ。



次世代型モビリティの活用を！

久米 勝也 (ネットワーク佐賀)



サンライズストリートに次世代型自動運転バスや、電動モビリティの活用をすれば、楽しい空間になり盛り上がりと思う。しっかりとスケジュールを立てて、国スポ・全障スポまでに実証実験を実現させるなど期限を決めて取り組むべきと思うが、市長の考えは！



柳町地区の  
無電柱化へ

黒田 利人 (緑橋国民)



柳町の地区は、江戸・明治・昭和の建物が残っている佐賀市内の誇れる一帯である。後世に伝え残すために、また景観向上のためにも、国、県などの助成を受けながら、無電柱化をする必要があると思うが、市はどのように考えるのか。



本市に真に必要な  
経済浮揚政策を

稲葉 高広 (自由民主党)



少子高齢化による市税収入の減少と扶助費増加への対応は本市における喫緊の課題であり、経済成長による市税収入の増加に取り組む必要がある。そこで、産業連関や各種データの分析を行い、域内取引の活性化を図る、真に必要な政策に選択と集中が必要では。

**答弁** 防犯カメラの犯罪抑止効果は認められており、犯罪が発生した場合の捜査立証にも有効と認識。一方で個人情報、プライバシー保護の観点もあり、防犯カメラ増設検討の際に犯罪抑止だけで市が直接設置する理由には不十分という意見が市個人情報保護審査会から示された。安全安心のまちづくりのために防犯カメラの設置を進めていくために警察との情報共有や課題の整理を行い、地域の意見を伺い、どのような役割分担や連携が望ましいか前向きに検討する。



◆その他◆西九州  
新幹線

**答弁** 近年、交通分野における各モビリティの開発は急速に進んでおり、移動の利便性を向上させるものとして実用化に向けた動きが加速している。本市が今年度末に新たに策定する佐賀市地域公共交通計画においても、自動運転の社会実装に向けて、実証実験等に取り組む予定としている。SAGA2024国スポ・全障スポ開催時に、移動手段の一つとして電動モビリティの実証実験が実施できるように検討を行いたい。

◆その他◆子どもたちの安全対策について



**答弁** 無電柱化には多額の経費を要することから、まずは安心安全の社会づくりの観点を優先して無電柱化に取り組んでいる。柳町地区の無電柱化については、景観形成による魅力向上の観点からすれば最も優先度が高い地区と認識している。現在、国において研究が進められている無電柱化の低コスト工法の動向を注視しながら、財源確保も含めて、引き続き柳町地区の無電柱化の実現方法を模索していきたいと考えている。

◆その他◆ライトファンタジー事業について



**答弁** 市の目指す姿を定める第2次佐賀市総合計画の基本方向のひとつを「地域資源を活かして新たな賑わいと活力を創出するまち」とし、実現のための施策「活力ある商工業の振興」を定め、既存商工業の経営安定及び域内における経済循環の向上等に取り組んでいる。経済規模の拡大のため、地域の稼ぐ力を高め、地域外収入の増と域内所得循環の向上も重要。今後も地域ブランド商品の振興や流通促進を通し商品の付加価値を高め、市内外からの需要を喚起したい。

◆その他◆CCCU事業について





SAGA2024  
国スポ・全障スポ

川原田裕明 (緑梅自民)



2年後に佐賀県で国民スポーツ大会が開催される。大会の成功はもちろんだが、半世紀に一度の大イベントである。このチャンスに佐賀市を全国に売り出すことと合わせて、今後の佐賀市の浮揚を目指した施策を講じるべきだ。市としてどう考えるのか。

**答弁** 北部山間地域は高速からのアクセスも良く、温泉宿泊施設や合宿・練習施設を有しスポーツ合宿に最適であり、今後実業団等を誘致していく。また、大会の来訪者に向けて本市の観光地や食などの情報を公式HPやSNSを活用して発信するなど、滞在時間を増やし、消費活動を促す周遊ルート作成に取り組み。スポーツ関係に限らず、相乗効果が生まれるようさまざまな施策を市長自ら先頭に立って全力で取り組み、スポーツの力で魅力あふれるまちにしていく。



佐賀空港「物流拠点構想」について

野中 宣明 (公明党)



物流品目としては佐賀市の誇れる製品や農産物に加え、世界最大手の台湾企業TSMCの熊本進出による半導体と考えられる。有明海沿岸道路の延伸で佐賀空港への交通利便性が向上しており、早急に構想を策定すべきであるが、今後の計画はどうなっているのか。

**答弁** 現在、庁内において分野を横断した調査研究を重ね、構想の実現に向けた取り組みなどについて検討を進めている。次年度は佐賀市南部地域での展開の可能性調査等に加え、外部委員会を設置して、令和6年度には策定できるよう議論を深めていく。広域的観点での対策を要するため、国、県、他自治体との連携や、幅広い業界団体との調整も必要と考える。今後、構想策定に向けた論点や必要項目の整理を行った上で、早期に公表できるよう努めていく。



◆その他◆中学校の部活動について

福祉教育委員会  
意見交換会を開催!

福祉教育委員会では、11月1日に佐賀市老人クラブ連合会と意見交換会を行いました。老人クラブ連合会からクラブ数、会員数の推移や活動費などの現状について説明があり、加入率の低下、役員の成り手不足、活動場所など老人クラブが抱える課題点について意見を交えました。



意見交換会の様子

編集後記

11月定例会は、サッカーワールドカップと同時期の開催となりました。予選1位通過には日本中が沸き上がったことでしょう。決勝Tでは8強を逃しましたが、沢山の勇気と感動を与えていただきました。さて、今定例会では29人の

議員が登場し、市政一般について質問しました。また、補正予算については、昨年8月の豪雨及び9月の台風14号による復旧経費、施設園芸及び水産業燃油価格高騰対策支援、出産・子育て応援事業等が講じられることとなりました。改めて新体制となりました佐賀市議会を、本年も宜しくお願い致します。(藤田佳典)

◎佐賀市議会 2月定例会のお知らせ  
2月28日(火) 午前10時開会(予定)

※会期日程等については、開会日に正式決定し、ホームページでお知らせします。  
※市内外のどなたでも傍聴することができます。  
※常任委員会や特別委員会も傍聴できますので、ぜひおいでください。

